本紙連載の「小田原絵巻」から キャラクター自販機が誕生

ダイドードリンコ、森永牛乳小田原販売

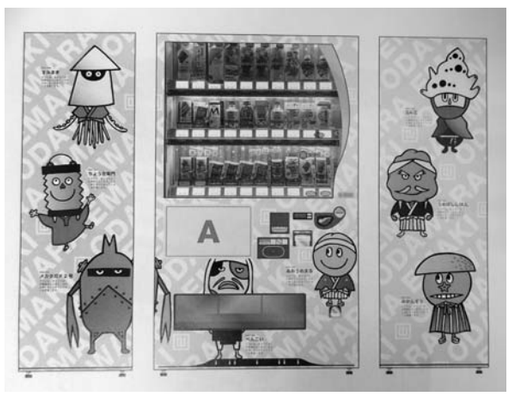
小田原にちなんだオリジナルキャラクターを登場させ、本紙で小説版「百景」を連載中の「小田原絵巻」がこのほど、ダイドードリンコのキャラクターラッピング自動販売機になった。設置希望者を募集している。

設置事業を進めているのは森永牛乳小田原販売（守屋松伸社長、小田原市荻窪）。同社はこれまでも自動販売機の設置事業を展開してきたが、今回は大手飲料会社のダイドードリンコと提携し、地域活性化の一環として、小田原らしいキャラクターの自販機の普及に乗り出した。

自販機完成イメージ

第1号機は同市栢山の「ばぁ～ばのキッチン」に設置が決定しているという。

同自販機は、前面、両側面に小田原絵巻のカラフルでユニークなキャラクターがちりばめられており、小田原でしか見られない完全オリジナルのデザイン。


側面、前面、側面のデザイン案

小田原絵巻は、原案となるキャラクター設定や小田原のシンボルを一般公募し、小田原市在住の守屋佑一さんが「奉行」（プロデューサー）、イラストレーター漆川世文さんが「絵師」、となってキャラクター化。海や山など多彩な海産物や農産物をモチーフに、続々と新キャラが誕生している。

それぞれのキャラクターには小田原に実在する場所など出没地域を想像できるエピソードが満載。それを小説化し、昨年10月から本紙に連載している。

このほど連載は1年を越え、第50話に突入する。

キャラクターを活かした活動は、小説だけにとどまらず、さまざまなグッズを生み出した。現在、手ぬぐいやクリアファイル、ポストカードなどのキャラクターグッズが作られ、小田原市内のイベントや土産物店（小田原城本丸売店、鈴廣かまぼこの里など）で販売されている。

今回登場した自販機は、一般的なキャラクターグッズの中でも最大級といえる。

小田原絵巻の自販機設置の申し込み、問い合わせは森永牛乳小田原販売（☎0465－34－6423）へ。

小田原絵巻グッズに関する問い合わせは守屋佑一さん（☎080－5658－5119）へ。

県西部のイベントで小田原絵巻のオリジナルグッズを販売する守屋さん、漆川さん（左から）

南足柄で森林ワークショップ

横浜国大のグループが

南足柄市の山林で4日、地域資源の価値創造を目指した試験的な森林ワークショップが開かれる。運営主体は横浜国立大学大学院国際社会科学研究院の氏川恵次教授らの研究グループ。

このワークショップは、県が今年度採択し地方創生大学連携事業の県西地域版の一つ。氏川教授らは「地域資源の価値創造による持続可能な社会システム『ASHIGARA MODEL』」を提案し、採択された。

主な内容は、南足柄市の大雄山最乗寺周辺をはじめとする豊な森林文化に着目した「南足柄市に世界一の森林公園作り」「大雄山最乗寺をキラーコンテンツとして外国人の訪日インバウンド戦略」などの企画。

インバウンドとは、外からの参入の意。インターネットのSNS利用で外国人の参加を呼びかけ、今回は、中国から15人ほどの参加があるという。

地元の森林組合や林業のみならず農業、飲食業の人などにも協力を得て、地元の味も楽しむ。

当日は午前10時に丸太の森公園駐車場に集合し、付近の山林で森林伐採やツリーハウス作りなどに取り組む。また、地元の人や学生、中国からの外国人参加者らと共に、日ごろあまり経験できない森林作業を通じて交流する。荒天時中止。

参加費は無料。当日参加や見学も受け入れている。問い合わせは同大学氏川教授（☎045－339－3538）へ。

南足柄市の豊な森林を活かした価値創造を目指す（写真は森林イメージ）

酒匂川流域から未来へ「つながる」

農業とエネルギー ②

太陽の恵みをいっぱい受けて育ったミカン畑の連なる、小田原市内の里山風景。ここ最近は、久野や荻窪の丘陵地を見渡すと、キラリと光る太陽光発電パネルも見られるようになった。こうした風景のかげに、農産物もエネルギーも安心安全なものを地域の皆でつくれたら―との思いで、コツコツと小さな取り組みを重ねる人たちの存在がある。その一部を紹介する。（短期集中・不定期連載）

11月から12月にかけて、小田原市内各地の里山では、太陽の色をしたミカンがたわわに実をつけるのが見られる。

このうち、曽我地区の小高い丘にあるミカン畑では「おひるねみかんジュース」と名付けられたジュースの原材料となるミカンがすくすく育った。

この畑は昨年、耕作放棄寸前となっていたところを、農家ではない一般市民の有志らが借り受けて整備してきた。

彼らは、高齢化が進んで増加しつつある耕作放棄地の問題を、世代間交流や地域活性化の起爆剤にならないかと考え、ミカンの収穫と商品化に取り組んできた。

「おひるねみかん」の名称は、手入れをされず放置された土地で眠っていたミカンのイメージだ。

プロジェクトは市民の出資で運営。畑の整備にはさまざまな人が参加した。話を聞いて共感した県議や市議なども協力し、汗を流した。肥料は地元かまぼこ業者が廃棄処分する予定だった魚のアラなど。除草剤を使わず、できるだけ農薬を使わない、安心安全なミカンを目指し、分からないところは本業で農家を営む人にアドバイスを受けた。

そのまま食べてもおいしいミカンだが、ジュースとして商品化し、売れるものにするには、ネーミングやパッケージも大切。畑に集まる仲間同士でイラストやデザインなど得意な分野を受け持ち、試行錯誤。ツテを使い、広告のプロのアドバイスも受けた。

そうして昨シーズン出来上がったのが「おひるねみかんジュース」＝写真＝。市内で協力してくれた知人の店やインターネットなどで180ミリリットル入り1本300円で売り出したところ、4500本が約1カ月で完売した。

……

販売元として立ち上げられた「かなごてファーム」の「かなごて」は神奈川県御殿場線沿線という意味で、共同代表は市内在住の団体職員小山田大和さんと農業を営む川久保和美さん。

川久保さんは、神奈川ブランドの小田原梅を使った梅干しなどを手がけ、県知事賞を受賞した実績もある。

「地域に眠っている良いものを掘り起こし、地域でお金を回して、地域交流や経済活性化を」と訴える小山田さんの熱意に動かされ、同プロジェクトを一緒に進めてきた。

一方、小山田さんは、エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議（エネ経会議）の事務局長、創発的地域づくり連携推進センター酒匂川流域・小田原支部代表として全国を駆け回る毎日。先月13・14日に小田原市民会館で開かれた「市民・地域共同発電所全国フォーラム2015小田原大会」でも実行委員会事務局長の大役をやり遂げた。

農業とエネルギー。一見すると異なったベクトルに見えるが、どちらも地域の大切な財産として自分たちの手で作り、守りたいという想いが一致する。農作物もエネルギーも地域で手作りし、地域で人手もお金も回せたら、皆が潤い、ハッピーじゃないか―。

その想いの発露には、2011年3月11日の東日本大震災と東電原発事故後、遠く離れた県西部でも放射能汚染の恐怖に直面した記憶が刻みつけられている。

……

全国フォーラムを無事に終えた小山田さんは現在、曽我の農地でミカン以外の農作物作りにも精を出す。今夏はヒマワリやエゴマも作ったが、これからタマネギを植えたり、田んぼの土の手入れをしたり。来年は無農薬米作りにも挑戦するつもりだ。

7月の上旬と11月下旬には、同市東町の県立小田原総合ビジネス高校商業科の「商品開発」の授業で特別講師も務めた。

「耕作放棄地は、そのままだったらダメになってしまう負の遺産。それを資産に変えることができた。1本300円のジュースがなぜ受け入れられ、完売したと思いますか？ このジュースのコンセプト、完成するまでのストーリーも大切なんです」。熱く訴える小山田さんの想いを静かに聴く高校生たち。授業では今後、高校生らと共にかなごてファーム新商品のラベル作りなどもする予定だ。

「農産物もエネルギーも手作りしたい」と始まったストーリーが、さらにつながっていく。

（③へ続く）

御殿場線沿線小田原足柄勉強会（おだあし）を通じて知り合った志村屋米穀店の志村さんも、おひるねみかんジュースの販売店として協力した。ジュースを前に笑顔の川久保さん、小山田さん、志村さん（左から、今年２月に同店の店頭で撮影）

ODAWARA EMAKI™
いつもありがとう
これからもよろしくね
連載１周年
&
50話突入記念
キャラ紹介

山田原絵巻。
百景
- HYAKKEI -

ちょう左衛門
昼間はいつも眠そうにしていて、そのうちにパタパタと顔をたたんで眠ってしまう。日が暮れると、顔がほんのり明るくなるほど元気になって踊りだす。暗い夜道に、ちょう左衛門がいると、明るくてたすかる。
【第４話に登場】

さるとび
あおうめまるの住むお城と、その城下町の警備をする忍者。昔は「かごや」という仕事をしていたけれど、車や汽車の登場で職を失い忍者になった。いつもすごく冷静で、あまり表情を変えない。忍術の達人。
【第27話に登場】

いのぼー
あおうめまるの大の仲良しで、近頃はいつも一緒。芋掘りに出かける途中ではぐれてしまった父さんを探したり、探さなかったり。母さんにつくってもらったまわしを巻いている。猪相撲の横綱「いのつな」が憧れ。
【第５話、他多数に登場】

あおうめまる
将来の目標は立派な武士になること。立派なお城に住んでいる。勉強や武道の稽古をサボって、いつもあっちへこっちへ走り回っている。お城を抜け出したお祭りの夜に、いのぼーと出会い、仲良くなる。
【第１話、他多数に登場】

SA-Z
謎多き「河口の研究所」の一員。あやしげなかぶりものをして、あやしげな仲間と、あやしげなロボットをつくったりしている。いいやつか悪いやつかも謎。実は性別も謎。レコードで海外の音楽をよく聴いている。
【第11話に登場】

あじろう
誇り高き「あじろう水軍」をひきいる、あじのお頭。頭の上のずきんのように見えるものは、実はあじろうの父親で、荒れた海を進むためのアドバイスをくれる。夢は世界の海を一周すること。みんなの憧れの的。
【第９話に登場】

くろめだ
腰に差した愛刀の銘は「黒めだか一文字」。剣術の達人。とある饅頭傘の男との決闘は歴史に残っている。最強とおそれられた剣士も、平和な今、剣だけでは食っていけず、趣味で集めた古道具を売り払わざるをえない。
【第７話、第33話に登場】

しらうめさま
あおうめまるのお母さん。お忍びで町へ出かけるのが楽しみで、息子たち三兄弟の町での暮らしぶりをこっそり観察している。どこかおっとりしたところがあるけれど、町のみんなからはとても好かれている。
【第10話に登場】

片浦レ茂衛門
その昔、決戦で右目に傷を負った。町中に酒飲み仲間がいて、みかんぞうは特に気の合う仲間。今は、自分の畑でレモンを育てている。おしゃべり好き。ガサツだけれど、しっかりもので、こだわりのない気持ちの良い男。
【第６話、第36話に登場】

うめぼししはん
とても強く、厳しく、優しい。武道の師範をしていて、稽古中は鬼のようにこわい。子供達から影で「鬼うめじじい」と呼ばれているのを知って、笑っている。あおうめまるの腕白に頭を抱えながらも、見守っている。
【第８話に登場】

こあじすけ
小さい頃、打ち捨てられたぼろ船で友達と海に出て、危ない目にあったところをあじろうに助けられた。それ以来、あじろうに憧れ、あじろう水軍の一員になった。あじろうに想いを寄せる海梅といつも喧嘩をしている。
【第２話に登場】

みかんぞう
全国を旅して、色々なものを見て歩いている。ベストセラー作家で、そのファンは多い。旅先で変なお土産を買ってくるので、みんなはそれを楽しみにしている。くろめだとは昔、一悶着あったようであまり仲良くなさそう。
【第６話、第34話に登場】

べんこい
お堀にかかる橋の上にいつも佇んで、流れる水を眺めている。身体は大きいが気が小さい。歌を詠むのが趣味で、誰かに聴いてもらおうと、夜道で声をかけるが、顔がこわいのか逃げられてしまうので悲しい。
【第３話に登場】

かわず石衛門
浜の近くで、静かに暮らしている。近所の子供達からは不気味がられている。小田原に危機が迫っている時に、それを教えてくれる。みかんぞうの著書を愛読している。とても長く生きている、らしい。
【第21話に登場】

www.odawaraemaki.com
©ODAWARA EMAKI™

ぐんゆうかっきょ「小田原絵巻™」とは？　あなたの考えたキャラクターアイデアをもとに、小田原市出身のイラストレーターが描き起こし、新しいキャラクターが生まれ、物語が紡がれていく絵巻です。そうやって生まれたキャラクターは、手ぬぐいやクリアファイル、ポストカードやお土産の包み紙になったり、お祭りのパンフレットや街歩きの地図に登場したり、小説の主人公になったり、小田原をはじめとする西湘・足柄地区であばれまわります。
応募資格はなにもありません。小田原や西湘・足柄地区の場所／もの／人／お店にまつわる「こんなところにこんなキャラクターがいたら楽しいな」と思うアイデアを送ってください。詳しくはWEB（www.odawaraemaki.com）まで。

総合制服企画製造卸
マルク
国際通り本店☎23－0909
小田原駅前店☎22－0909
栢山駅前支店☎38－0909
西武小田原店2階☎48－0919
お堀端店☎21－0919
ピアゴ大雄山店3階☎73－1201(代)
平塚OSC湘南シティ☎24－1109

風渡るすすき高原の囲舎家で
そば・とろろ・地鶏三昧!!
そば処 穂し乃庵 -HOSHINO・AN-
そば処 穂し乃庵
●定休日 木曜日
●営業時間 AM11:00～PM15:00
PM17:00～PM20:00
〒250-0631
神奈川県足柄下郡箱根町仙石原817
TEL&FAX 0460-84-0055
HAKONE HOSHINO GROUP
www.hakone-hoshino.jp

すすき高原の中、
やすらぎの甘味でひとときを。
甘味処 よもぎ屋 -HOSHINO・AN-
甘味処 よもぎ屋
●定休日 木曜日
●営業時間 AM9:00～PM17:00
〒250-0631
神奈川県足柄下郡箱根町仙石原817
TEL&FAX 0460-84-3955
HAKONE HOSHINO GROUP
www.hakone-hoshino.jp

すすき高原を見渡す二階家で
釜めしとわっぱめしを!!
ごはんと板前料理 銀の穂 -HOSHINO・AN-
ごはんと板前料理 銀の穂
●定休日 水曜日
●営業時間 AM11:00～PM15:00(LO14:30)
PM17:30～PM21:00(LO20:30)
〒250-0631
神奈川県足柄下郡箱根町仙石原817
TEL&FAX 0460-84-4158
HAKONE HOSHINO GROUP
www.hakone-hoshino.jp
●箱根山麓豚の角煮釜めし
●ゆばわっぱめし

身近なニュースをお届けする日刊紙『神静民報』ご購読のお申し込みは下記の販売店へ　●定価1ヵ月2,000円　●1部売り90円　小田原市立病院売店、大雄山線小田原駅・大雄山駅改札、ジャンボーナックビル（カフェ・リーフ）で1部売り好評発売中!

小田原地区
■読売新聞 読売センター 小田原報徳 ☎0465(36)3683
小田原西部店 ☎0465(35)0746
小田原中央店 ☎0465(24)5050
酒匂店 ☎0465(48)0007
■毎日新聞小田原中央販売所 ☎0465(87)5313
■ASA小田原(有)曽和新聞店 ☎0465(23)3300
■(有)水口新聞店 ☎0465(34)7538
■米山新聞店矢作店 ☎0465(36)6220
■ASA鴨宮(有)飯山新聞店 ☎0465(47)5422
■読売新聞鴨宮専売所 ☎0465(47)3644
■ASA国府津佐藤販売店 ☎0465(47)2568
■読売新聞(有)佐藤新聞店 ☎0465(47)3351
■ASA小田原北部 ☎0465(34)8246
■ASA富水(有)渡邊プロジェクト ☎0120(36)3775
■ASA栢山 (有)ケイ・ディー・エスグループ ☎0465(37)1767
■ASA小田原東部 ☎0465(24)3012
■今井新聞店 ☎0465(42)0340
■産経新聞小田原中央専売所 ☎0465(25)2480
足柄下地区
■(有)湯本新聞販売所 ☎0460(85)5264
■(有)高橋新聞店 ☎0465(68)0333
■(有)金井 ☎0465(62)7889
南足柄・足柄上地区
■読売新聞 読売センター 小田原城北店 ☎0465(74)9061
■(有)内藤新聞本舗 中央店 ☎0465(83)3500
南足柄店 ☎0465(72)0234
■(有)高田新聞店 ☎0465(74)0281
■小松新聞店 ☎0465(82)0574
■杉山新聞店 ☎0465(75)0356
秦野地区
■読売新聞秦野専売所 ☎0463(82)0290
■(有)北湘読売開発 ☎0463(82)7335
■渋沢東部新聞販売店 ☎0463(87)3680
■ASA渋沢 ☎0463(88)0589
■栗原新聞店 ☎0463(88)0058
二宮・大磯地区
■毎日二宮専売所 ☎0465(43)5963
■毎日国府本郷専売所 ☎0463(72)3272
■毎日国府津二宮専売所 ☎0465(43)5963